

6-5 九州西部における最近の地震活動 (1988 年 5 月～1988 年 10 月)

Recent Seismic Activity in the Western Kyushu District
(May, 1988 – October, 1988)

九州大学 理学部
Faculty of Science, Kyushu University

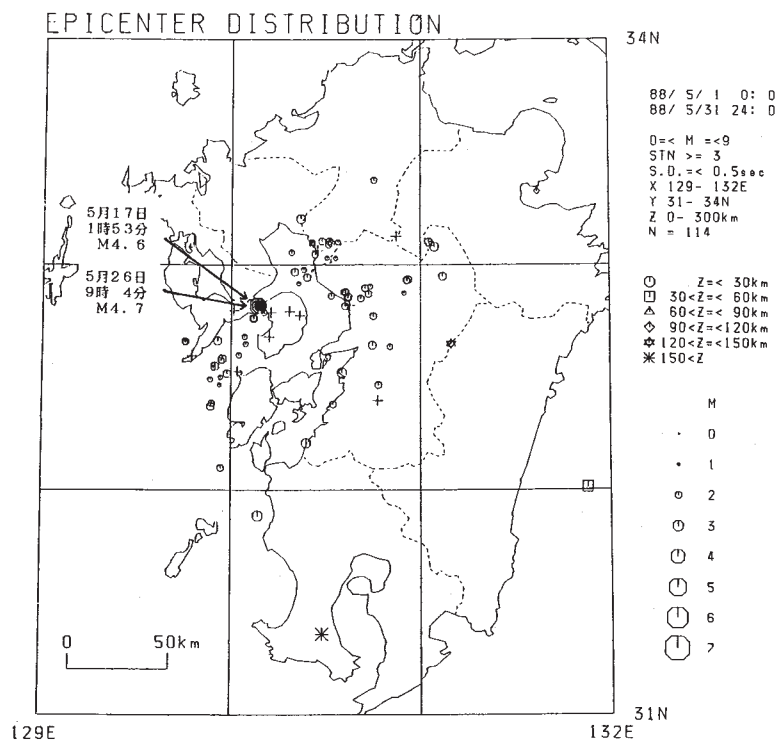
1988 年 5 月～1988 年 10 月に、島原地震火山観測所の微小地震観測網によって観測された地震の月別震央分布を、第 1 図(A)～(F)に示す。

この期間、九州西部は比較的静穏であったが、島原半島北西部で小規模の群発活動があった。以下に、この期間における九州西部の地震活動の特徴について、簡単に述べる。

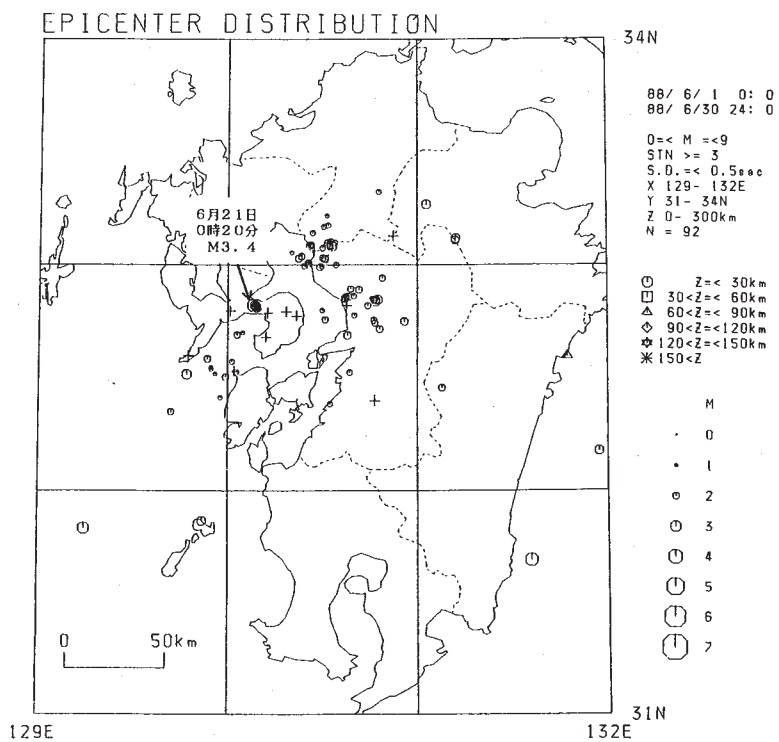
- (1) 島原半島北西部の森山町において、5 月 17 日に M4.6, 5 月 26 日に M4.7 (気象庁決定のマグニチュードはそれぞれ 3.8, 4.1) が発生した。第 1 図(A)及び第 2 図(A)に震央分布を示す。この 2 つの地震の震源は極めて近接 (1 km 以内) している。また、双方とも余震活動をともなった (第 2 図(B))。島原半島付近における 1982 年以降の主要活動域は、そのほとんどが半島西側の千々石湾に集中しており、千々石湾を埋め尽くすように発生している (第 2 図(C))。しかし、今回の活動は、千々石湾 (雲仙地溝) の外側に発生したという点で特異であり、注目される。最大地震の発震機構は、横ずれ成分を含んだ正断層型であり (第 2 図(D))、雲仙地溝内に発生する地震と同様に、張力軸はほぼ南北方向である。震源分布を考慮すると、南西落ちの節面が断層面と推定される。この一連の地震活動は、6 月 21 日に M3.4 が発生し、これにともなって余震活動が一時的にやや活発化した (第 2 図(B))、8 月にはほぼ終息した。
- (2) 天草灘では、この期間、マグニチュード 3 を越える地震が時々発生している。10 月にはやや活発化し、小規模な群発的活動が認められる。
- (3) 有明海 (特に有明海北部) は、従来から地震活動の活発な地域であるが、マグニチュード 3 を越えるものは少なかった。しかし、前報¹⁾でも指摘したように、最近やや大粒の地震が発生するようになってきた。10 月 20 日には、大牟田市沖で M3.5 の地震が発生した。この付近では、1987 年 12 月 14 日に M3.5 が発生しており、1987 年 10 月には有明海北東岸で M4.2 が発生している。(島原地震火山観測所)

参 考 文 献

- 1) 九州大学理学部：九州西部における最近の地震活動 (1987 年 11 月～1988 年 4 月)、連絡会報, 40 (1988), 372-378.



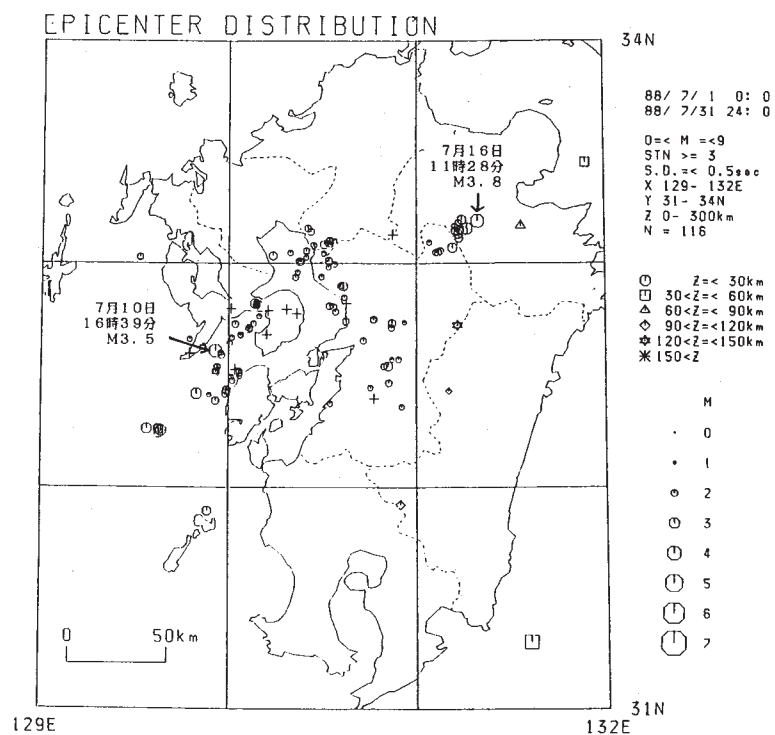
(A) 1988年5月
(A) May, 1988.



(B) 1988年6月
(B) June, 1988.

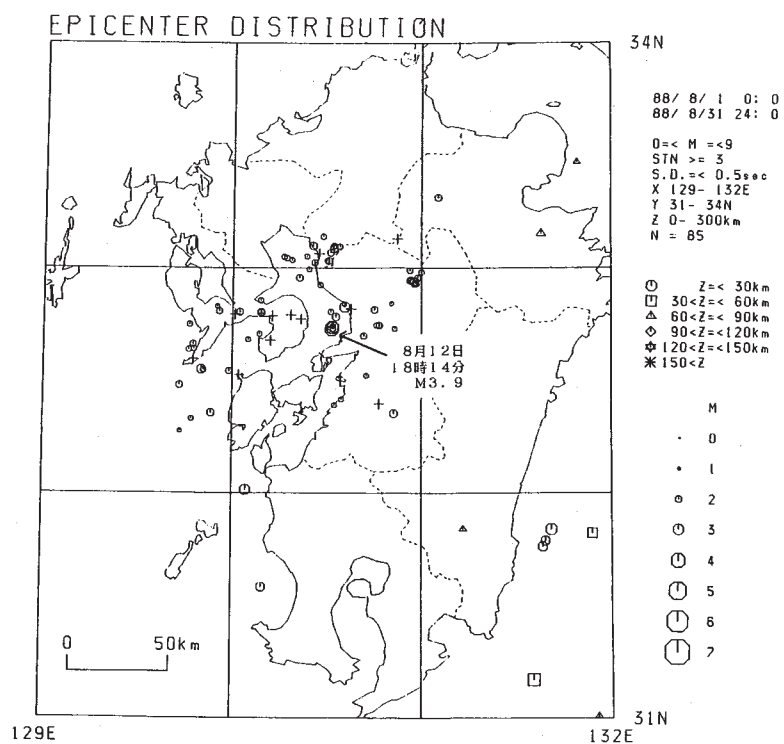
第1図 (A) - (F) 九州西部の地震の震央分布

Fig. 1 (A)-(F) Epicenter distribution of earthquakes in the Western Kyushu.



(C) 1988年7月

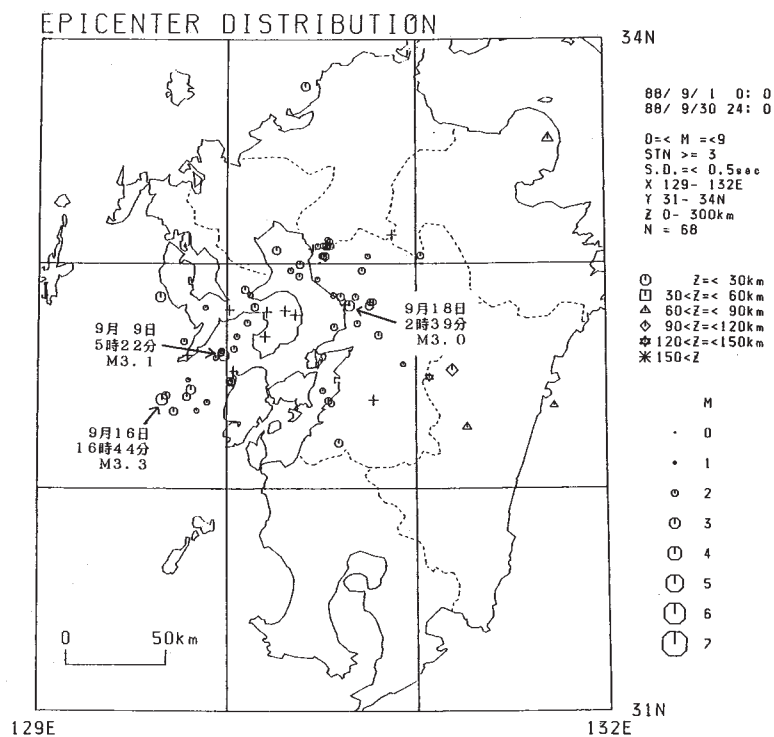
(C) July, 1988.



(D) 1988年8月

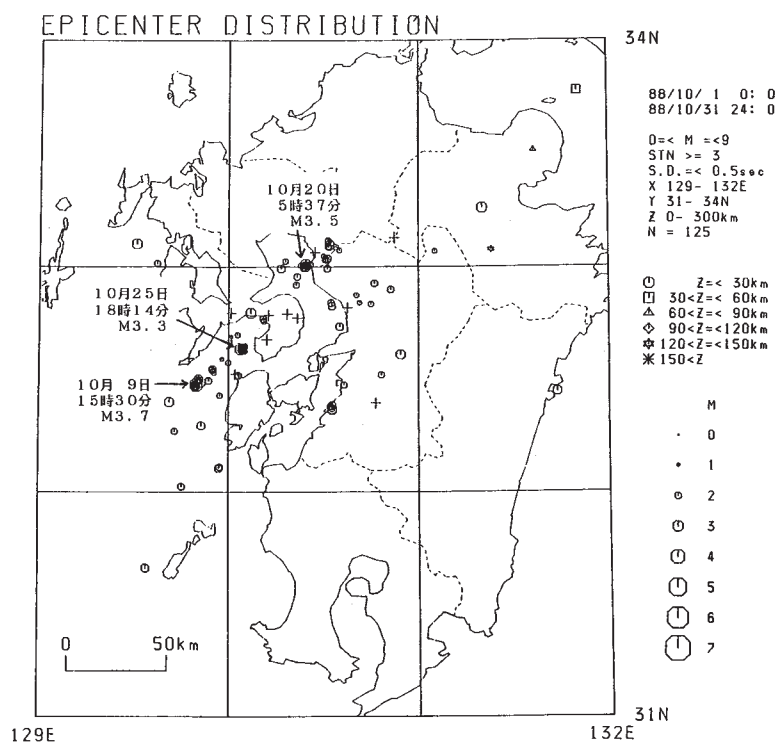
(D) August, 1988.

第1図 つづき



(E) 1988年9月

(E) September, 1988.

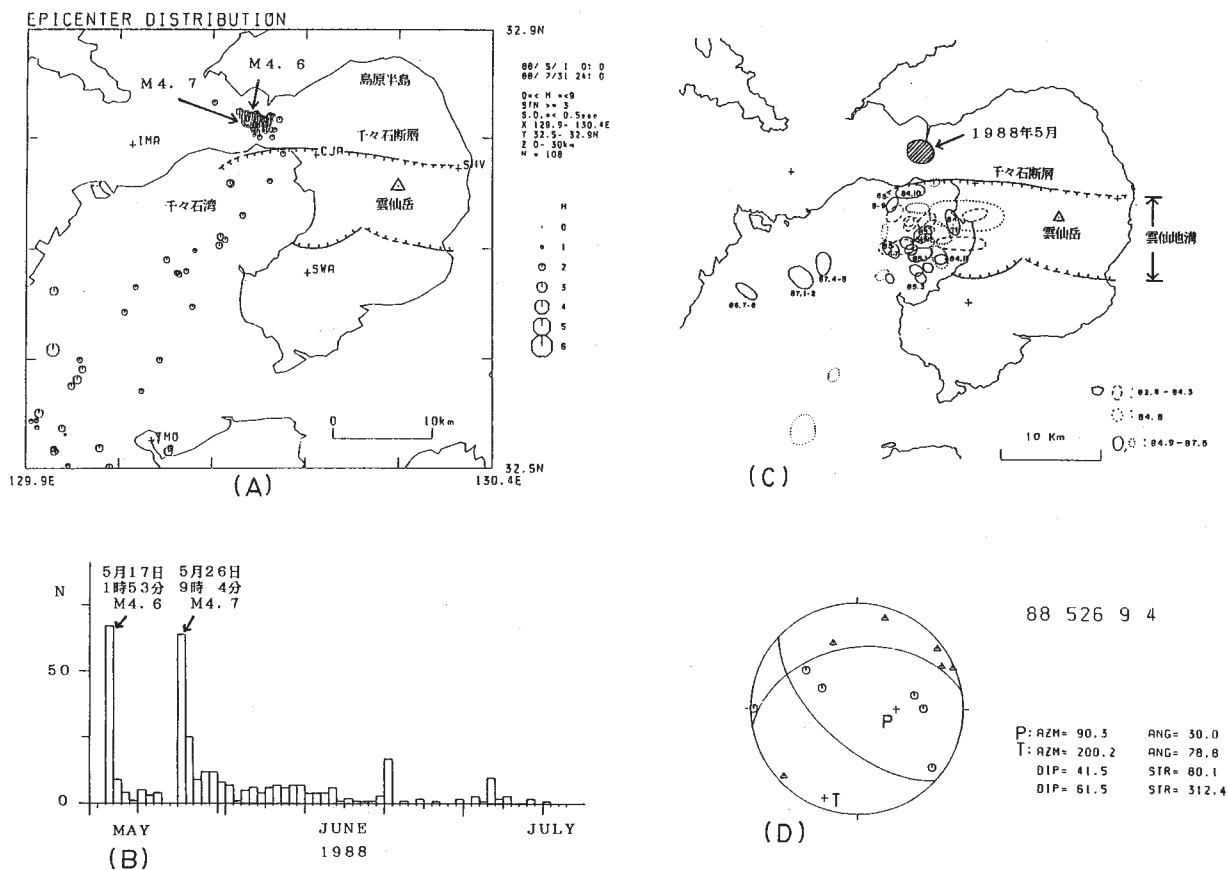


(F) 1988年10月

(F) October, 1988.

第1図 つづき

Fig. 1 (Continued)



第2図 森山地震群の活動

(A) 震央分布 (1988年5月～7月)

(B) 森山地震群の日別発生頻度

(C) 島原半島付近における主な地震群の活動域 (1982年～)

(D) 森山地震群の最大地震の発生機構 (下半球等積投影)

Fig. 2 Seismic activity of the 1988 Moriyama earthquake sequence.

(A) Epicenter distribution. (May, 1988 – July, 1988).

(B) Daily number of the Moriyama earthquake sequence.

(C) Epicentral regions of major earthquake sequences in and around the Shimabara peninsula from 1982.

(D) Focal mechanism of the largest event in the Moriyama earthquake sequence. (lower hemisphere projection).